

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

学校名	嬉野市立五町田小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や研修についての在り方を見直し、時間外勤務は前年度と比較して減少しているが、大幅な短縮になっておらず、更なる働き方改革が必要である。 ・児童対応のケース会議を早めに関き、医療機関やS W, 心の相談員等の外部機関と連携・協力しながら学校組織として取り組んでいる。担任が一人で抱え込まない、学校全体で取り組む体制の確立を図っている。 ・「学び合い」を活用した授業づくりについては、昨年度よりも実践ができてはいるが、コロナ禍の中でまだまだ十分な取組に至っていない。基礎学力の定着を含め、今後も全職員で取り組む必要がある。 ・今年度よりG I G Aスクール構想により、タブレット端末が導入され、高学年を中心に授業での効果的な活用がなされた。学校評価もタブレット端末によるアンケートを行うことができ、活用する上での基礎ができつつある。今後の活用を更に工夫し、学習や生活の改善に積極的に用いたい。 ・情報教育の重要性が増してきている。オンラインゲームの在り方やネットいじめ等、家庭と連携した情報教育を推進することが必要である。
------------------	--

2 学校教育目標	<p>「かしこく やさしく たくましい五町田っ子の育成」</p> <p>○かしこい子(知) 主体的に学び、集団の中で生き生きと活動できる子ども ○やさしい子(徳) 自分で考え行動し、他者と協力できる子ども</p> <p>○たくましい子(体) 心も体も健康で、ねばり強い子ども</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>① 全ての子どもが「活動する喜び」「分かる・できる喜び」「教え合い・学び合う喜び」「追究・工夫する喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。</p> <p>② 全ての子どもに「関わり合いの中で生き生きと学ぶ」機会を作り、「学校に行きたい」と思える期待感の向上を図る。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・学習状況調査の採点を通じて、課題や手立てを出し合い、共有化を図りマイプランをたて検証する場を設ける。
	○学び合いを取り入れたわかりやすい授業の実践	○「授業がわかりやすい」「進んで学び合いができた」と回答した児童が90%以上。	・授業の中で、自分の考えを持つ場や学び合いの場を設定する。 ・思考を助ける掲示を活用したり、発問を工夫して、学習内容の理解を図る。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価のアンケートの「道徳の授業で学んだことを大切にしたいと思う」と回答した児童が90%以上	・年に2回アンケートを実施 ・道徳の授業・体験活動の充実 ・人権集会(11月) ・ふれあい道徳(12月)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見、早期対応 ○QUテストにおいて1学期よりも2学期は満足群を増やし、要支援群を減らす。 ○「学校が楽しい」という児童の割合が90%以上	・日常の観察を心がけ、子どもの小さなつぶやきを見逃さないようにする。また、子どもが相談しやすい雰囲気作りを行う。 ・月1回の仲良しアンケートや年2回のQUテストを行う。 ・子供同士で認め合うような学級づくりに努める。 ・各種おたよりで、学校での取り組みを周知する。
	○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○めあてをもって実践しようとする児童を90%以上	・キャリアパスポートの活用を図る。 ・生活や学習において自分のめあてや見通しをもたせて、活動後のふりかえりを行うことで自分の成長につなげていく。
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●「生活・家庭学習チェックシート」を活用し、生活習慣に関する項目が「できた」と答える児童が90%以上	・「生活・家庭学習チェックシート」に取り組み、各項目を意識して生活をさせ、自分の生活を振り返らせる。また、時間や時刻については、家庭で話し合っ決めてもらう。 ・「生活・家庭学習チェックシート」の意識づけを図るとに、結果について情報を発信し、保護者との連携を図る。
	○体力づくり	○体育やスポーツチャレンジなど、「自分の記録を伸ばそうとがんばっている」と答える児童が90%以上	・体育学習の充実を図り、体育の時間やマラソン大会などにおける自己の記録向上に向けての意欲を高める。 ・佐賀県スポーツチャレンジに参加することを通して、運動の楽しさや競争することの楽しさを感じさせる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守する。	・定時退勤日(第1金曜日・第3水曜日)の推進
	○計画的・効率的な業務の遂行	○「計画的・効率的に業務を進めている」と自己評価する職員の割合が90%以上を目指す。	・学校行事やプロジェクトの活動を見直し・精選を行い、年間計画にもとづき、見直しをもって業務に取り組む。 ・校務フォルダの整理を推進し、業務の効率化をめざす。 ・職員会議のペーパーレス化で業務改善を行う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育